

3.3 全体研究管理

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

京都大学防災研究所において、全ての個別研究テーマの研究管理を以下の方法で実施する。

情報共有・研究成果の統合のために年2回程度全ての研究参加者が出席する「全体研究会議」を実施する。また、先行する首都直下地震防災・減災特別プロジェクトの際の研究担当責任者等による「研究推進会議」を立ち上げ、年数回開催することにより研究アドバイス・研究管理をあわせて行い、社会実装に向けて研究成果の一般性・汎用性をより高める。さらにサブプロジェクト①が運営する「統括委員会」に参画し、サブプロジェクト相互の協力・連携を図り、研究成果の社会還元への推進に努める。

それに加えて、防災担当実務者および諸外国の防災研究者との連携を図り、研究成果の発信を行う場として、「都市防災研究協議会」の継続的開催、年1回の「研究成果報告会」の開催、英文誌での特集号刊行、国際研究集会での研究紹介等の活動を行う。

(b) 平成24年度業務目的

京都大学防災研究所において、全ての個別研究テーマの研究管理を以下の方法で実施する。

- 1) 統括委員会に出席し、サブプロジェクト相互の協力・連携を図る。
- 2) 全体研究会議を2回開催する。
- 3) 研究推進会議を2回開催する。
- 4) 都市防災研究協議会を東京において7回程度開催し、危機対応能力向上、災害法制、経済復興シナリオについて検討討議し、米国の共同研究者による事例紹介も含めて、実務者との問題認識の共有を図る。
- 5) 研究成果報告会を年度末に東京で開催する。
- 6) Natural Hazard Workshop および ESRI User Conference において、本研究プロジェクトについて報告するとともに、情報交換を通して米国の研究者の協力を確保する。
- 7) サブプロ③紹介ホームページ及び防災啓発用のホームページを作成し、研究プロジェクトに関する情報発信を行う。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名	メールアドレス
京都大学防災研究所巨大災害研究センター	教授	林 春男	
京都大学防災研究所巨大災害研究センター	准教授	牧 紀男	
京都大学防災研究所巨大災害研究センター	助教	鈴木進吾	
京都大学防災研究所巨大災害研究センター	オフィスアシスタント	村上滋希	
京都大学防災研究所巨大災害研究センター	オフィスアシスタント	陳 燁桜	
京都大学防災研究所巨大災害研究センター	オフィスアシスタント	伍 傑濤	
東京大学生産技術研究所	教授	目黒公郎	
新潟大学危機管理室	教授	田村圭子	

富士常葉大学大学院環境防災研究科	教授	重川希志依	
千葉大学大学院工学研究科	教授	山崎文雄	
明治大学大学院政治経済学研究科	特任教授	中林一樹	
大分大学教育福祉科学部	准教授	山崎栄一	
政策研究大学院大学	教授	武田文男	
関西大学社会安全学部	准教授	永松伸吾	
効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議	事務局長	澤野次郎	

(2) 平成24年度の成果

(a) 業務の要約

京都大学防災研究所において、全ての個別研究テーマの研究管理を以下の方法で実施した。

- 1) 統括委員会に出席し、サブプロジェクト相互の協力・連携を図った。
- 2) 全体研究会議を2回開催した。
- 3) 研究推進会議を2回開催した。
- 4) 都市防災研究協議会を東京において7回程度開催し、危機対応能力向上、災害法制、経済復興シナリオについて検討討議し、米国の共同研究者による事例紹介も含めて、実務者との問題認識の共有を図った。
- 5) 研究成果報告会を年度末に東京で開催した。
- 6) Natural Hazard Workshop および ESRI User Conference において、本研究プロジェクトについて報告するとともに、情報交換を通して米国の研究者の協力を確保した。
- 7) サブプロ③紹介ホームページ及び防災啓発用のホームページを作成し、研究プロジェクトに関する情報発信を行った。

(b) 業務の成果

1) 統括委員会

第1回統括委員会を平成24年8月10日（於：東京大学地震研究所）で、第2回統括委員会を平成25年1月15日（於：京都大学防災研究所）でサブプロ①の主催で開催した。前川宏一委員長のもと、各サブプロジェクト代表者及びサブプロ関係者が参加して、サブプロジェクト相互の協力・連携のあり方を議論し、プロジェクトを円滑に推進させた。

2) 全体研究会議

第1回全体研究会議平成24年8月18日・19日の2日間（於：全国町村会館）で、第2回全体研究会議を平成25年1月21日・22日の2日間（於：神戸国際会議場）で開催した。サブプロ③に参加する研究分担者及び研究協力者の参加の下に、本サブプロジェクトが5年間かけて実現しようとする目的と、成果物のイメージについて共有を図るとともに、各研究参加者から研究内容が紹介され、活発な意見交換を行い、プロジェクトについて相互理解を深めることができた。

なお、2回の全体研究会議のプログラムを4.4に掲載した。各講演の内容はサブプロ③のHPで公開している。

3) 研究推進会議

第1回研究推進会議を平成24年8月19日（於：全国町村会館）で、第2回研究推進会議を平成25年2月22日（於：帝国ホテル）で開催した。研究推進会議メンバーである富士常葉大学重川希志依教授、明治大学中林一樹特任教授、千葉大学山崎文雄教授に加え新潟大学田村圭子教授、東京大学目黒公郎教授に文部科学省からも参加を得て、サブプロ③の運営方針について意見交換を行い、プロジェクトを円滑に推進させた。

4) 都市防災研究協議会

都市防災研究協議会を東京において総計7回開催し、危機対応能力向上、災害法制、経済復興シナリオの3つのテーマについて検討討議し、米国の共同研究者による事例紹介も含めて、実務者との問題認識の共有を図った。参加担当者として研究参画者及び防災実務者を対象とした。研究参画者としては、サブプロ③の参画者はもちろん、他のサブプロにも参加を呼びかけ、実際に参加していただいた。また、防災実務者としては、全国都道府県及び政令市の防災担当部局を対象に参加の呼び掛けを行った。また、実際に都市防災研究協議会に参加した方には、次回以降は個人名でご案内している。都市防災研究協議会のプログラムを4.1～4.3に掲載した。各講演の内容はサブプロ③のHPで公開している。

5) 研究成果報告会

サブプロ③の研究成果報告会を平成25年2月22日に帝国ホテル東京において公開で開催し、総計で約120名の参加を得た。当日のプログラムを4.5に掲載した。各講演の内容はサブプロ③のHPで公開している。

6) Natural Hazard Workshop および ESRI User Conference での報告

平成24年7月14日から17日にわたり米国コロラド州Bloomfield市でUniversity of Colorado at Boulderが主催するNatural Hazard WorkshopにおけるJapan Research Sessionにおいて本サブプロジェクトの紹介を行い、情報交換を通して米国の研究者の協力を確保した。また平成24年7月22日から27日にかけて米国カリフォルニア州San Diego市でESRIが主催するUser Conferenceにおいて、防災分野におけるgeo-portalの活用に関して、FEMAの担当責任者と協議し、米国ESRIの協力を確保した。

7) ホームページの作成

サブプロ③紹介ホームページ及び防災啓発用のホームページを作成し、研究プロジェクトに関する情報発信を行った。URLは<http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp/ur/>。

(c) 結論ならびに今後の課題

平成24年度の業務目的として掲げた全体研究管理の各項目については、予定通り達成することができ、研究の円滑な進捗ができた。来年度も基本的には本年度全体研究管理の手法を継承するとともに、英文誌でサブプロ③の特集号を出版することを企画する予定である。

(d) 引用文献

なし

(e) 学会等発表実績

学会等における口頭・ポスター発表

発表成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表場所（学会等名）	発表時期	国際・国内の別
Japan Research Session: Early Recovery from the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami Disaster	H.Hayashi, K. Tamura, M. Inoguchi	37th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop	平成24年7月16日	国際

学会誌・雑誌等における論文掲載

なし

マスコミ等における報道・掲載

なし

(f) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1) 特許出願

なし

2) ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

(3) 平成25年度業務計画案

サブプロジェクト③の総括的・効果的な運営を図るため、代表研究機関である国立大学法人京都大学防災研究所において、研究管理を以下の方法で実施する。

- (a) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営するため2回程度開催される統括委員会に参加し、プロジェクト全体の運営を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進する。
- (b) サブプロジェクト③の研究参画者を中心に全体研究会議を2回程度開催する。
- (c) サブプロジェクト③の効果的な運営を図るために、関係者による研究推進会議を2回程度開催する。
- (d) 都市防災研究協議会を東京において7回程度開催し、危機対応能力向上、災害法制、経済復興シナリオについて検討討議し、米国の共同研究者による事例紹介も含めて、実務者との問題認識の共有を図る。
- (e) 公開の研究成果報告会を年度末に東京で開催し、他のサブプロ①及び②とも連携しながら研究成果を多くの人に対して発信する。

- (f) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトと連携して国内外の交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図る。その一環として、**Natural Hazard Workshop** および **ESRI User Conference** において、本研究プロジェクトについて報告するとともに、情報交換を通して米国の研究者の協力を確保する。また、南カリフォルニア大学が中心となる **ShakeOut** 訓練を中心とする防災リテラシーの向上に向けた検討を共同して行う。
- (g) サブプロジェクト③の研究成果を世界に発信するために、**Journal of Disaster Research**, vol.9, No.1(平成 26 年 2 月発刊予定)で「都市減災」特集号を刊行する。
- (h) サブプロジェクト③の研究成果を体系的に紹介するとともに、防災リテラシー向上を目的とした「都市減災」ホームページを作成し、研究プロジェクトに関する情報発信を行う。